

重点11 教職員研修の充実

1A 教職員の資質向上（小・中学校）

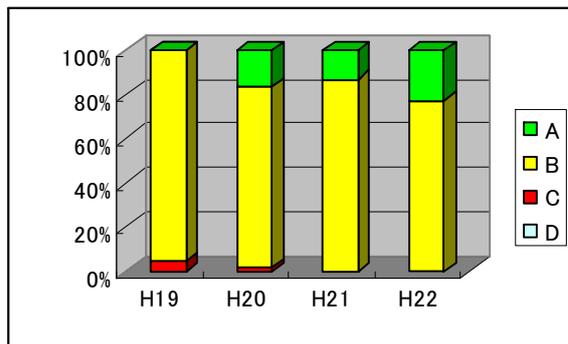
ねらい

様々な教育課題が山積する現在、教職員の資質向上が強く求められています。そのような中、①自己変革をめざし、学び続ける教師、②子どもを育てる厳しさをもつ教師、③子どもに寄り添い、よさや可能性をのばす教師、④絶えず保育・授業改善にはげむ教師が、現在求められる教師の姿と言えます。

現状と課題

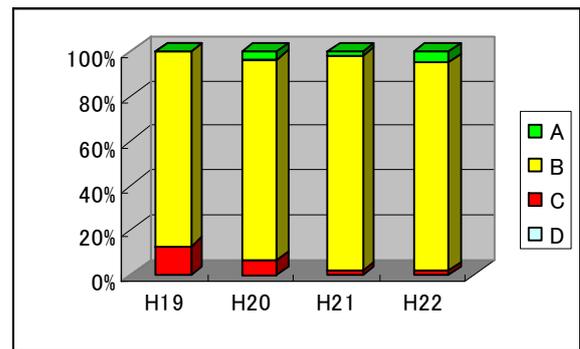
○ 自校の研修に関する各学校の反省

Q 計画的・継続的な研修が実施できたか

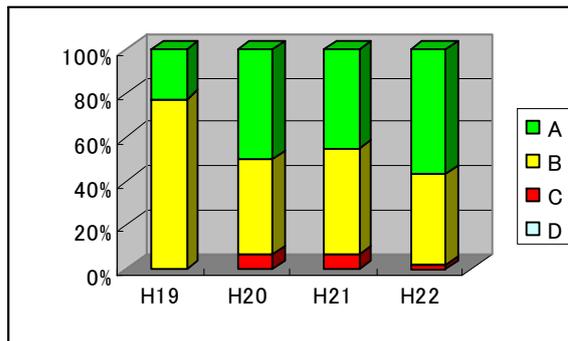


Q 研修の工夫・改善がされたか

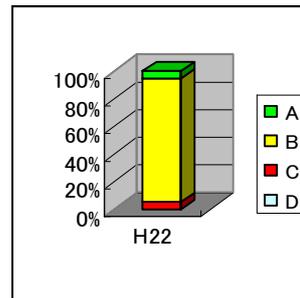
<市全体：平成22年度>



Q 教育力向上のための授業公開の推進はできたか



Q 教師力向上サポートブックの活用による研修ができたか



「A」：十分  
「B」：おおむね十分  
「C」：やや不十分  
「D」：不十分

- ・ 各学校の反省からは、「十分」「おおむね十分」とする回答がほぼ90%以上となっていますが、近年の全国学力・学習状況調査や到達度検査の結果、生徒指導上の課題から考えると、教員の資質向上に係る校内研修についての「強み」と「弱み」をより一層明確にし、授業改善、指導改善を図っていく必要があります。
- ・ 新学習指導要領や学びの一体化についてその趣旨を浸透させていくとともに、各種研修会等の交流も含めた日常的な研修（OJT）が、今後の重要な校内研修の課題と言えます。
- ・ 教師力向上サポートブックを活用した、自己分析と研修の推進が浸透してきています。

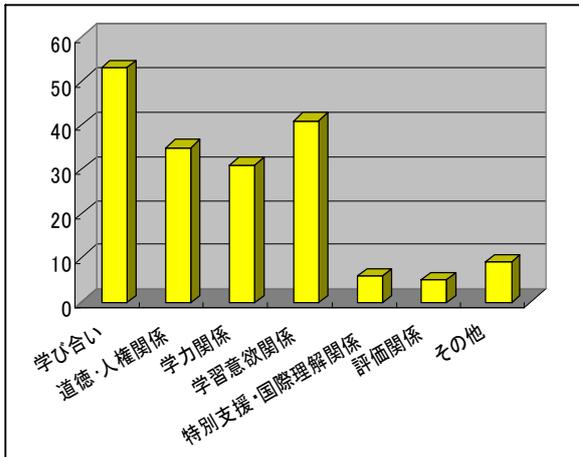
今後の方向性

- 校内研修の改善・充実を図り、組織的な取組、日常の授業改善につなげます。また、学びの一体化の取組の意義の浸透を図り、幼保小中が連携した授業改善の取組を進めます。

- 教育センター等の外部研修会への積極的参加を促すとともに、校内での共有化を進めます。
- 学習指導要領の改訂を踏まえ、完全実施（小学校平成23年度，中学校平成24年度）にむけて、内容の定着を図っていきます。
- 教師力向上サポートブックを活用した研修をいっそう推進し、教職員同士の協働性を高めます。

**主な取組状況**

○ **校内研修の主な内容** <平成22年度 各小中学校の研修主題の類型（のべ校数）>

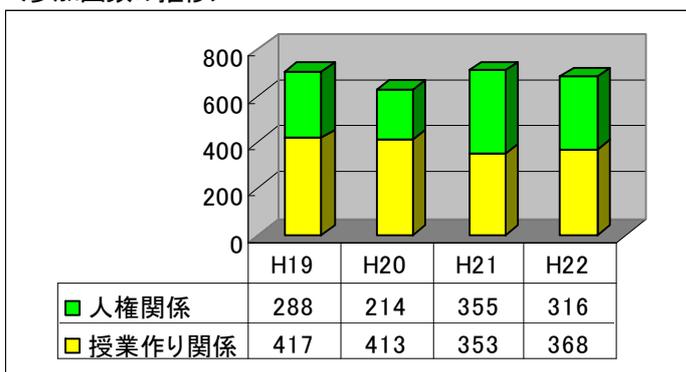


- ・ 「学び合い」は、子どもたちが互いに学び合う中で、コミュニケーション力を育成したり、仲間づくりなどを図ったりする研修を表しています
- ・ 「学力関係」は、基礎基本の定着や、思考力・表現力などの育成を図る研修を表しています。
- ・ 「学習意欲関係」は、課題解決的な学習の研究やキャリア教育など、子どもたちの学習意欲を高める指導方法の工夫や教材の開発を図る研修を表しています。

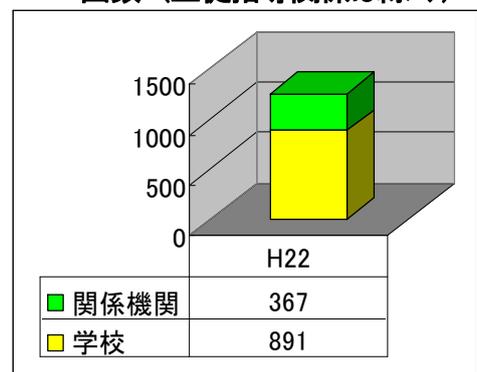
- ・ 「その他」には、運動、家庭との連携、生徒指導、ICTの有効活用などの研修が含まれます。

○ **校内研修への指導主事の参加回数**

<参加回数の推移>



○ **校内研修以外での学校・関係機関訪問回数（生徒指導関係は除く）**



- ・ 指導主事等が、各校から要請を受け、授業研究会や講演等への助言や指導のために訪問しています。要請以外でも、随時、学校を訪問し、指導や助言、相談に応じています。また、関係機関を訪問し、調整に努めています
- ・ 各校の研修会では、基礎的・基本的な知識・技能の習得のための指導や人権教育、日常的な授業改善への工夫など、研究テーマに応じた協議が行われています。特に最近は、小・中学校ともにコミュニケーション力の育成や仲間づくりに関する研修課題が増加しています。また、増加する生徒指導上の課題に対応するため、Q-U調査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）に関する研修を取り入れている学校が増えています。